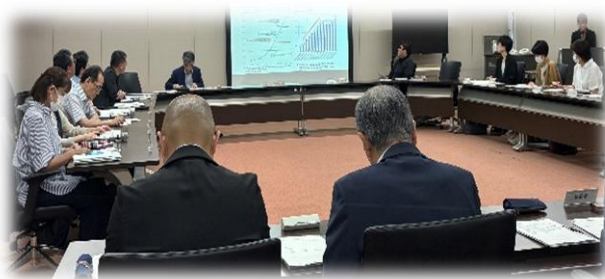


令和8年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました



平成29年度に設置された上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会(以下、協議会という。)は、令和8年度から第4期(令和8～10年度)がスタートしました。

本協議会では、「住み慣れた地域で暮らし続けることができる上越地域」を目指し、『地域の医療及び介護関係者の連携強化』と『市民の意思決定を尊重した自立支援の理念の実現』に取り組めます。

令和8年7月14日に開催した協議会では、新たな委員14人が参加し、第4期の取組方針について共有と意見交換を行いました。

協議会には、3つの専門部会を設置し、各職能団体や関係機関の皆様を部会委員として、具体的な取組を進めていきます。

◆協議会正副会長が次のとおり選出されました

会 長：高橋慶一委員（上越医師会長）

副会長：瀬下善人委員（上越地域居宅介護支援事業推進協議会長）



◆意見等

- 入院等の大きな出来事の前後も本人の「生活」がある。支援者全員が本人の生活をイメージして連携を図れるとよい。
- MCS(メディカルケアステーション)の加入者は増加しているが、より円滑な連携を推進するため、効果的な活用が広まるとよい。
- 最優先されるべき理念は「市民一人ひとりの幸せと福祉」だが、限られた医療・介護資源の中では課題が多い。これまで協議会で積み重ねてきた専門部会の取組に加え、支援者が円滑に連携できる仕組みづくりについても議論や整理が進むとよい。
- 介護保険サービス等の利用中や卒業後も地域とのつながりを維持できる仕組みづくりについて考えていく必要がある。
- 今後、担い手不足により従来どおりのサービス提供が困難になることを見据え、医療や介護の現状に関する市民への情報発信と啓発が必要である。
- 前回の取組発表会(令和8年2月開催)は専門職を対象としたが、今後は市民からも参加していただくべきだと思う。
- 専門部会の取組に対する評価指標については、アウトプット(活動実績)とアウトカム(成果)に分けて設定した方がよい。目指す姿の主語は「市民」であるため、アウトカムは「市民がどう感じ、どう変化したか」という視点で評価するとよい。

7月28日に第1回専門部会を合同で開催し、具体的な取組を協議しました。